

10月の基調判断 弱含み

製造業	➡	緩やかな持ち直し	住宅着工	➡	弱含み
観光	➡	高水準で推移している	公共工事	➡	高水準で推移している
小売店販売	➡	横ばい	雇用	➡	弱含み
乗用車販売	➡	持ち直しの動きが弱まっている	企業倒産	➡	増加基調にある

[前月の基調判断からの変化] ↑ 引き上げ ➡ 据え置き ↓ 引き下げ

注) 1. 基調判断は足元の状況
2. 小売店販売は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の販売動向

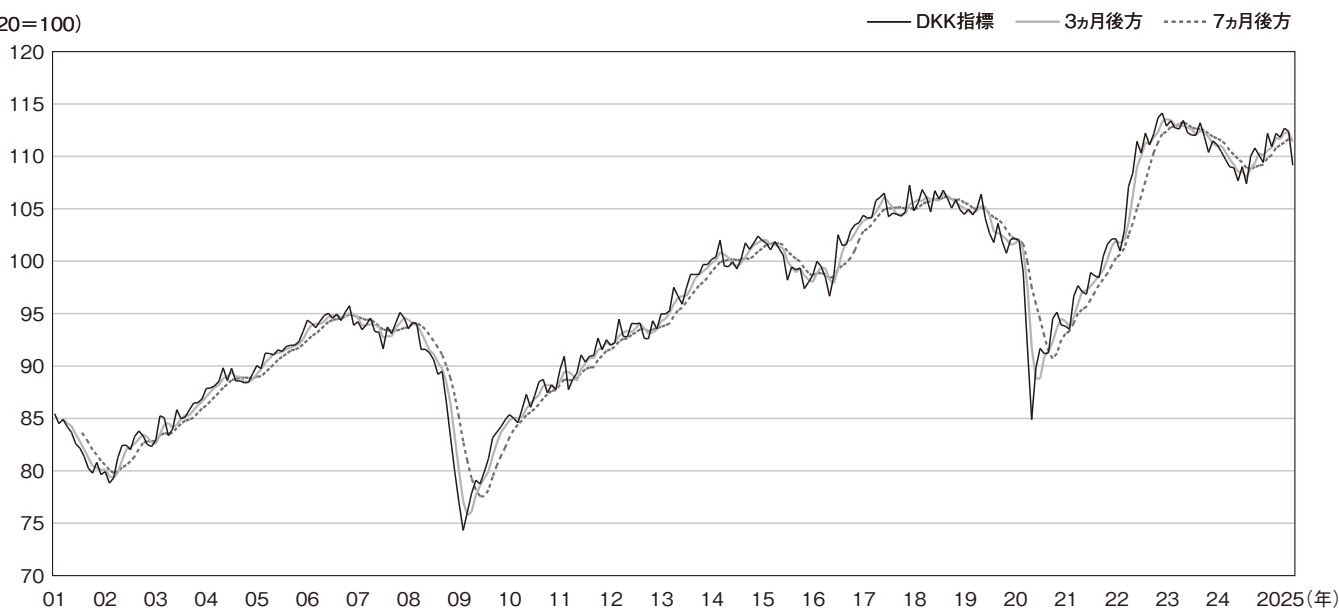
大分県の主要経済指標の動き

	2024. 8	9	10	11	12	2025. 1	2	3	4	5	6	7	8
鉱工業生産指数	●	●	●	○	●	●	●	●	△	○	○	○	—
小売店販売額	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
乗用車・軽乗用車販売台数	●	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●
新設住宅着工戸数	●	○	○	○	●	●	●	○	●	○	●	○	●
公共工事保証請負額	○	○	●	●	●	○	●	●	●	○	○	●	●
ホテル宿泊客数	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	●	○
新規求人数	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	○	●
企業倒産件数	○	△	●	○	○	○	●	●	●	△	○	○	●
プラス指標の割合	50.0	62.5	37.5	62.5	25.0	62.5	25.0	50.0	50.0	75.0	75.0	62.5	28.6

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化
2. 鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「—」表示
3. 小売店販売額は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の合計
4. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分
5. ホテル宿泊客数は県内宿泊施設の計

DKK 指標 (2025年7月)

(2020=100)



注) 3ヵ月後方移動平均は足元の変化をつかみやすく、7ヵ月後方移動平均は変化が定着しつつあることを確認する値。
※本指標は、大銀経済経営研究所オリジナルの景気指標です。大分県経済の把握に重要と判断した指標について CI モデルによる分析を通じて算出したものです。

DKK 指標 (CI) によると、7月の指数は前月比▲3.2の109.2と2ヵ月連続で低下しました。項目別では、「所定外労働時間」「新車販売台数」「雇用者保険初回受給者」「小売販売額」「輸入額」「宿泊客数」「有効求人倍率」がマイナスに寄与しました。